

西の湖における二枚貝類の資源状況

井戸本純一・久米弘人

◆背景・目的

西の湖では、定期的な湖底耕耘がはじまった平成18年度以降、それまで湖面全体をほぼ覆いつくしていたオオカナダモ群落が姿を消し、淡水真珠母貝の成長が回復するなどの漁場改善効果が確認されている。そこで、天然に生息する二枚貝類の資源状況を把握するため、漁船による採集調査を実施した。

◆成果の内容・特徴

- ・大型のイシガイ類を含めて広い範囲の資源状況を捉えるため、複数の貝桁網漁船による単位努力量あたりの漁獲量（CPUE）を調査した（2009年1月28日）。
- ・採集された二枚貝類はイシガイ科7種とマシジミで、希少種であるオグラヌマガイ（琵琶湖淀川水系固有種）も確認された。
- ・漁獲量が最も多かったのは大型になるメンカラスガイで、小型で個体数が最も多かったタテボシガイが2位であった。
- ・耕耘区内外における全種合計のCPUEは、耕耘区外の6.72kg/hに対して耕耘区内は7.77kg/hとやや高かったが、大差はなかった。

◆成果の活用・留意点

- ・湖底耕耘開始前は貝桁網による採集が不可能であったために比較できる調査が行われていないが、水草群落の異常な密度と面積から、二枚貝の生息可能な水域は極めて限定されていたと思われる。
- ・イシガイ類資源の復活には、濾水による水質浄化効果のほか、タナゴ類などの産卵母胎としてコイ科魚類を中心とした生態系回復への寄与が期待される。
- ・西の湖は、琵琶湖海区漁業調整委員会の指示により貝類の採捕が一般に禁止されている。

表1 西の湖湖底耕耘区内外での試験操業における単位努力量あたりの二枚貝類漁獲量（CPUE）

種類別	耕耘区内				耕耘区外			
	漁船1	漁船2	漁船3	平均(kg/h)	漁船1	漁船2	漁船3	平均(kg/h)
マシジミ	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.04	0.03	0.02
タテボシガイ	0.06	6.04	1.23	2.44	0.03	7.64	0.74	2.80
ササノハガイ	0.00	0.24	0.32	0.19	0.00	0.06	0.04	0.03
イケチョウガイ	0.00	0.51	0.45	0.32	0.00	0.04	0.00	0.01
メンカラスガイ	3.40	5.06	5.26	4.58	0.99	5.25	4.31	3.52
ドブガイ	0.00	0.26	0.19	0.15	0.00	0.40	0.01	0.14
マルドブガイ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.11	0.06
オグラヌマガイ	0.00	0.13	0.17	0.10	0.00	0.05	0.37	0.14
合計	3.46	12.24	7.63	7.77	1.01	13.54	5.61	6.72

※操業時間は各1時間で耕耘区内外は同じ漁船が担当。

* 本報告は水産庁による平成20年度湖沼の漁場改善技術開発委託事業の成果の一部である。